

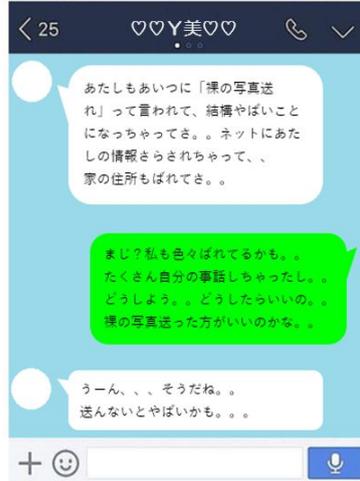
SNSやネット起因の性犯罪について

昨今、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）が起因となり犯罪に巻き込まれる子供が増えてきております。2019年、SNSを使った児童売春や児童ポルノ等の性犯罪被害にあった子供の数が2000人を超え、過去最多となりました※1。被害の多かったサイトは「Twitter」で全体の約4割を占め、Instagramの被害も増加傾向にあります※2。SNSは自分と同じ趣味の人を簡単に探すことができる反面、顔も名前も分からないことを利用し、簡単に人を騙すことができる面もあります。SNSは子供たちにとって**魅力的**であり、**危険**でもあるのです。

※1 令和元年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況(警察庁ホームページ) より
※2 子供の性被害対策内の統計データ(警察庁ホームページ) より

以下のケースは実際にあったSNS性被害の事例です。

A子さんは、SNS上で知り合った人に「タダでLINEスタンプをあげる」と言われたので、特に疑いもせず好きなキャラクターのスタンプをもらいました。すると、「スタンプあげたんだから裸の写真を送れ」と脅されてしまい、断りましたが、同年代の女の子になりました犯人の仲間は「私も断ったらひどい目にあった。。」などと言って不安を煽り、A子さんは怯え、裸の写真など犯人のいう通りに写真を送ってしまいました。



－ A子さんの行動によって －

- ・ 犯人に送った裸の写真がSNS上に**拡散される可能性**がある
- ・ 裸の写真は脅しに利用され、**金銭を要求される可能性**がある
- ・ 写真の流出だけでなく、**更に性被害に遭う可能性**がある

上記ケースのように、**信頼できる人、優しい人だと思っていたのに騙されるケース**もありますが、「お金が欲しい」「親と喧嘩したので泊めてほしい」など、**自らの発言で危険を招く事**もあります。子供たちを守るためには、**SNS上にどのような危険があるのかを伝え、常に意識して行動するよう促す事が重要です**。そのために、SNSについて話す時間を定期的に設けたり、インターネット利用について家庭のルールを作るなどして、子供たちが被害に遭わないように守っていく必要があります。SNS・ネット起因の性犯罪から子供たちを守るため、以下の項目を実施しているかチェックしてみましょう。

□ フィルタリングを利用している。

※フィルタリングとは、インターネット上のWEBサイト等を一定の基準に基づき選別し、青少年に有害な情報を閲覧できなくするプログラムやサービスです。

□ 家庭でのルールは子供も含め家族全員で話し合っている。

子供も一緒に話し合うことで子供たちの考えを知り、時間や内容などルールの設定ができます。

□ SNSで知り合った人との付き合い方を知っている。

インターネットで交わされる情報は全てが本当だとは限りません。また、もし相手から直接会おうと言われた時には、1人で会いにいかない、人が大勢いる場所で会うようにする等の注意点を理解しておくことが大切です。

SNSの問題で困ったこと、実際に被害に遭った場合は、相談を受付けているダイヤルへ連絡しましょう。

警察相談専用電話

9 1 1 0

性犯罪被害相談電話

8 1 0 3 (ハートさん)